

グループ名	ユニット名等	科 目 名	担当教員名	対象学年次	学期
現代社会	2 単位 現代日本	社会学	石井 幸夫	2 年次	春

授業のキーワード	労働、家族、女性
授業の概要	戦後日本社会の中で労働概念、家族概念がどう変遷してきたかを、女性を軸に明らかにし、これにより一方で人間にとっての労働、家族とはどのようなものか、他方で社会学の見方はどのようなものなのかを講義します。
期待される学習成果（目標）	以下の点の（概略的な）理解を確立すること。 1.現代日本の（特に女性の）労働概念、家族概念 2.戦後日本社会の変遷 3.社会学的視点の固有性

## 授業展開

	テーマ	内 容		テーマ	内 容
第1講	労働と愛	労働と愛の社会的機能	第9講	高度経済成長期以後70-80年代の日本社会について4	女性労働力率と学歴との関係、世帯間所得格差の平準化
第2講	戦後高度経済成長期50-60年代の日本社会について1	女性労働力率の低下、人口爆発	第10講	高度経済成長期以後70-80年代の日本社会について5	エンゲル係数とエンゼル係数、少年非行問題
第3講	戦後高度経済成長期50-60年代の日本社会について2	少子化、人口ボーナス、高度成長	第11講	高度経済成長期以後70-80年代の日本社会について6	少子化
第4講	戦後高度経済成長期50-60年代の日本社会について3	家族革命	第12講	高度経済成長期以後70-80年代の日本社会について7	まとめ
第5講	高度経済成長期以後70-80年代の日本社会について1	消費社会化 1	第13講	現代90年代以降の日本社会について1	グローバル化
第6講	高度経済成長期以後70-80年代の日本社会について2	消費社会化 2	第14講	現代90年代以降の日本社会について2	非正規雇用化
第7講	小試験	小試験	第15講	現代90年代以降の日本社会について3	新しい労働概念、まとめ
第8講	高度経済成長期以後70-80年代の日本社会について3	ダグラス・有沢の法則、同類婚	定期試験		講義内容に関する記述試験を行います。
評価方法	定期試験（70%）、小試験（事前予告あり、30%） 出席状況、授業態度は授業貢献度として				
使用する教科書（必ず購入してください）			参 考 文 献		
ありません。資料、ハンドアウトをダウンロード形式で配布します。					